

# 国語

## 目次

1	国語科改訂のポイント	-----	1
2	国語科の目標のポイント	-----	3
3	国語科の内容のポイント	-----	3
4	各学年の指導のポイント	-----	5
5	国語科の指導計画作成上のポイント	-----	10
6	奈良県の郷土素材などを活用した指導例	-----	12

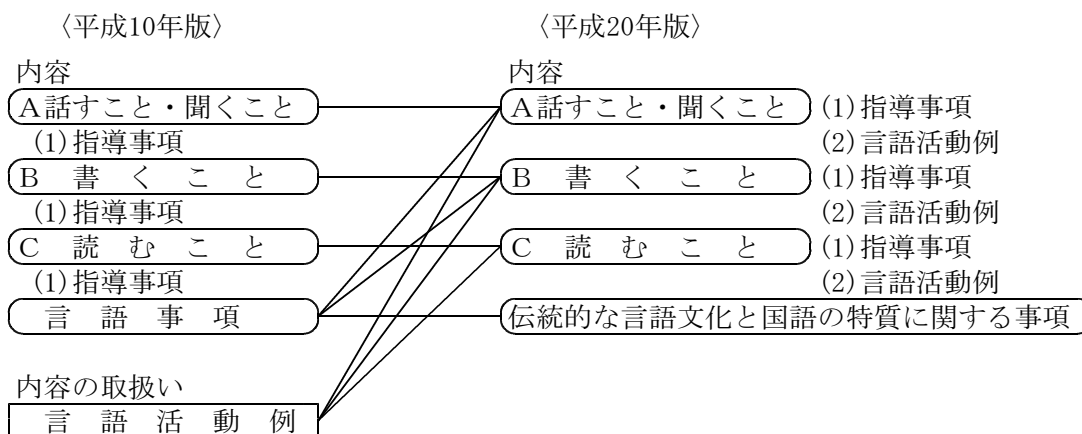
# 1 国語科改訂のポイント

## (1) 目標及び内容の構成

- 教科の目標は、これまでと変更はなく次のとおりである。

国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力及び言語感覚を養い、国語に対する関心を深め国語を尊重する態度を育てる。

- 内容については、これまでは「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の3領域及び〔言語事項〕で構成していたが、3領域と〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕に改めている。
- 各領域では、各領域の内容を(1)の指導事項に示すとともに、これまでは内容の取扱いに示していた言語活動例を内容の(2)に位置付けた。これは、国語の能力を調和的に育て実生活で生きて働くように、それぞれの領域の特性を生かしながら児童主体の言語活動を活発にし、国語科の目標を確実に豊かに実現することを目指したためである。



・各学年の内容の指導に当たって、(1)に示す指導事項を(2)に示す言語活動例を通して指導することを一層重視する。

- 〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕は、我が国の言語文化を享受し継承・発展させる態度を育てることや、国語が果たす役割や特質についてまとまった知識を身に付けることとともに、実際の言語活動において有機的に働くような能力を育てることに重点を置いて構成している。

## (2) 学習過程の明確化

- 自ら学び、課題を解決していく能力の育成を重視し、指導事項については学習過程を明確化している。

※ 学習過程の明確化→指導例



・学習過程の明確化は、総則の第4の2に示している「(4) 各教科等の指導に当たっては、児童が学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりする活動を計画的に取り入れるよう工夫すること。」と深く関連している。

### (3) 言語活動の充実

- 「話すこと・聞くこと」、「書くこと」及び「読むこと」の各領域においては、基礎的・基本的な知識・技能を活用して課題を探究することのできる国語の能力を身に付けることができるよう、内容の(2)に日常生活に必要とされる記録、説明、報告、紹介、感想、討論などの言語活動を具体的に例示している。 ※ 言語活動の充実→指導例

### (4) 学習の系統性の重視

- 国語科の指導内容は、系統的・段階的に上の学年につながっていくとともに、螺旋的・反復的に繰り返しながら学習し、能力の定着を図ることを基本としている。そのため、児童の実態に応じ、各領域の指導事項及び言語活動例、さらには〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕を関連付けながら、重点を置くべき指導内容を明確にし、その系統化を図ることが重要である。

### (5) 伝統的な言語文化に関する指導の重視

- 伝統的な言語文化は、創造と継承を繰り返しながら形成されてきた。それらを小学校から取り上げて親しむようにし、我が国の言語文化を継承し、新たな創造へとつないでいくことができるよう内容を構成している。



- ・ 低学年……昔話や神話・伝承
- ・ 中学年……易しい文語調の短歌や俳句、慣用句や故事成語
- ・ 高学年……古文・漢文 など

言語文化…言語そのもの、言語生活、言語芸術や芸能など幅広く指す。

※ 指導例

### (6) 読書活動の充実

- 読書の指導については、目的に応じて本や文章などを選んで読んだり、それらを活用して自分の考えを記述したりすることを重視している。また、日常的に読書に親しむために、学校図書館を計画的に利用し必要な本や文章などを選ぶことができるように指導することも重視している。

### (7) 文字指導の内容の改善

- 漢字の指導については、日常生活や他教科等の学習における使用や、読書活動の充実に資することを重視して改善を図っている。



- ・ 読みの指導……学年別漢字配当表に配当されている漢字を当該学年で指導する。上の学年に配当されている漢字や学年別漢字配当表以外の常用漢字についても、必要に応じて振り仮名を用いるなどして児童が読む機会を多くもつようにする。
- ・ 書きの指導……次の学年までに定着を図るようにする。日常生活において確実に使えることを重視するため、実際に文章を書く中で繰り返し学習させるなど、当該学年においても漸次書き、文や文章の中で使うようにする。

- ローマ字の指導については、情報機器の活用や他の学習活動等との関連を考慮し、従前の第4学年から第3学年に移行している。
- 書写の指導については、手紙を書いたり記録を取ったりするなどの実際の日常生活や学習活動に役立つようにする。

## 2 国語科の目標のポイント

### (1) 教科の目標

国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力及び言語感覚を養い、国語に対する関心を深め国語を尊重する態度を育てる。

- 国語の能力の根幹となる、国語による表現力と理解力とを育成することが、国語科の最も基本的な目標であり、人間と人間との関係の中で、互いの立場や考えを尊重し、言語を通して適切に表現したり正確に理解したりする伝え合う力を高めることが重要である。このような言語能力は、日常生活に生きて働くよう、一人一人の児童が言語の主體的な使い手として、相手、目的や意図、場面や状況などに応じて適切に表現したり正確に理解したりする力として育成することが大切である。
- 思考力や想像力及び言語感覚を養い、国語に対する自覚と関心を高め、その特質や機能についての理解を深めさせることによって、国語の習得を一層確実にすることが大切である。国語に対する認識を深めていくことによって、国語を愛護し、尊重して、国語そのものを一層優れたものに向上させていこうとする意識や態度を育成することが大切である。

### (2) 学年の目標

- 各学年の目標は、各領域に対応して、次の3項目を示している。

- (1) 「話すこと・聞くこと」に関する目標 … 話す能力、聞く能力及び話し合う能力と、話すこと・聞くこと全体にわたる態度に関する目標
- (2) 「書くこと」に関する目標 … 書く能力と書く態度に関する目標
- (3) 「読むこと」に関する目標 … 読む能力と読書態度に関する目標

また、各学年の目標は、2学年まとめて示している。児童の発達の段階や中学校との関連を配慮しつつ、学校や児童の実態に応じて各学年における指導内容を重点化し、十分な定着を図ることが大切である。

- 各2学年とも(1)から(3)までの各領域の目標はそれぞれ独自の目標として示しているが、同時に相互に密接な関連性がある。したがって、各領域の目標を関連付けるとともに、指導が調和的に行われるような配慮をする必要がある。

→ 「5 国語科の指導計画作成上のポイント」(2) 参照

## 3 国語科の内容のポイント

### (1) 内容構成

- 国語科の内容は、これまでの「A話すこと・聞くこと」、「B書くこと」及び「C読むこと」という3領域構成を維持するとともに、伝統的な言語文化に親しむ態度を育てたり、国語の特質についての理解を深めたり、豊かな言語感覚を養ったりすることなどを重視して、〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕を新設している。
- 〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕の内容は、(1)の「ア伝統的な言語文化に関する事項」、「イ言葉の特徴やきまりに関する事項」、「ウ文字に関する事項」、(2)の書写に関する事項から構成している。なお、従前の〔言語事項〕の内容のうち、発音・

発声や言葉遣いに関する事項など領域の内容に関連の深いものについては、関係する領域の内容に位置付けている。（「4 各学年のポイント」（1）～（3）の表内 ～～ 線部）



### 国語科の内容構成

- ・「A話すこと・聞くこと」
  - ・「B書くこと」
  - ・「C読むこと」
  - ・〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕
    - (1) 「ア 伝統的な言語文化に関する事項」
    - 「イ 言葉の特徴やきまりに関する事項」
    - 「ウ 文字に関する事項」
  - (2) 書写に関する事項
- } 各領域の指導を通して指導する。
- (1)ウの指導や「B書くこと」の領域の指導との関連を図る。

## (2) 各領域及び〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕の内容

### A話すこと・聞くこと

#### ○「A話すこと・聞くこと」の指導事項

- ・話題設定や取材に関する指導事項〈新設〉… 以下の三つの指導事項と密接に関連
- ・話すことに関する指導事項
  - ◆構成や内容及び言葉遣い… 相手や目的に応じて話を構成し、考えをまとめたり、適切な言葉遣いで話したりすること
  - ◆音声… 相手や場に応じて音声や言葉の調子を整えて適切に話すこと（低・中学年）
- ・聞くことに関する指導事項… 目的に応じて相手の話を聞き、自分とかわらせて聞くこと
- ・話し合うことに関する指導事項… 互いの考えや立場などを尊重しながら互いに協力し合って話し合うこと



### 「A話すこと・聞くこと」の言語活動例

- ・説明や報告を発表したり、それらを聞いて感想や意見を述べたりすること
  - ・紹介や推薦をしたり、それらを聞いたりすること
- など

### B書くこと

#### ○「B書くこと」の指導事項

- ・課題設定や取材に関する指導事項… 以下の四つの指導事項と密接に関連
- ・構成に関する指導事項… 自分の考えが明確になるよう文章を構成すること
- ・記述に関する指導事項… 語や文及び段落の続き方に注意してまとまりのある文章を記述すること
- ・推敲に関する指導事項… 記述した文章を読み返し推敲すること
- ・交流に関する指導事項〈新設〉… 書いたものを発表し合い、交流すること



### 「B書くこと」の言語活動例

- ・詩や物語など創造的な内容について書くこと
  - ・説明や報告、紹介や手紙などの日常生活で活用されるものを書くこと
  - ・学級新聞などに表すこと
- など

**C読むこと**

○ 「C読むこと」の指導事項

- ・音読に関する指導事項  
…語の意味や内容が伝わるように音読すること
- ・効果的な読み方に関する指導事項 …目的に応じて、本や文章を比べて読むなど効果的な読み方を工夫すること（高学年）
- ・説明的な文章の解釈に関する指導事項
- ・文学的な文章の解釈に関する指導事項
- ・自分の考えの形成及び交流に関する指導事項（新設）
- ・目的に応じた読書に関する指導事項

交流（「書くこと」・「読むこと」）の目的…一人一人の感じ方や考え方の違いを認め合い、互いの考えを広げたり深めたりすること。

文章の解釈…本や文章に書かれた内容を理解し意味付けること。  
内容や表現を、想像、分析、比較、対照、推論などによって相互に関連付けて読む。



「C読むこと」の言語活動例

- ・物語や詩、伝記などの創作や、説明などの多様な本や文章を読んで感想を述べたり考えを表現したりすること など

〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕

○ 以下のア～ウの事項については、各領域の指導を通して指導する。

- ア 伝統的な言語文化に関する事項
- イ 言葉の特徴やきまりに関する事項
  - ・言葉の働きや特徴に関する事項（新設）
  - ・表記に関する事項
  - ・語句に関する事項
  - ・文及び文章の構成に関する事項
  - ・言葉遣いに関する事項
  - ・表現の工夫に関する事項
- ウ 文字に関する事項
  - ・仮名の読み書きや使い方に関する事項
  - ・漢字の読み書きや使い方などに関する事項
  - ・文字文化に関する事項

古典の世界に親しませる工夫  
『古事記』『万葉集』等の教材化  
◆小学校の授業で使える万葉集の歌リスト  
→ ※ 指導例  
◆古典に親しもう（小学校用DVD）  
→ ※ 指導例

○ 書写に関する事項

（1）ウの「文字に関する事項」の指導や、「B書くこと」の領域の指導と緊密に関連している。小学校低学年から系統的に指導し、日常生活や学習活動に生かすことのできる書写の能力を育成することが重要である。

## 4 各学年の指導のポイント



「1 国語科改訂のポイント」（2）、（3）、（4）で述べたように、各学年の内容（1）の指導事項については、学習過程が明確にされるとともに、日常生活に必要とされる言語活動例が内容（2）に示されている。また、重点を置くべき指導内容を明確にし、その系統化が図られている。

（1）第1学年及び第2学年の指導のポイント

	目 標	内容(1) 指導事項	内容(2) 言語活動例
<b>A 話 す</b>	相手に応じ、身近なことなどについて、事柄の順序を考えながら話す能力、大事なことを落とさない	ア 身近なことや経験したことなどから話題を決め、必要な事柄を思い出すこと。 イ 相手に応じて、話す事柄を順序立て、 <u>丁寧</u>	ア 事物の説明や経験の報告をしたり、それらを聞いて感想を述べたりすること。 イ 尋ねたり応答したり、グループで話し

こと・聞くこと	<p>いように聞く能力、話題に沿って話し合う能力を身に付けさせるとともに、進んで話したり聞いたりしようとする態度を育てる。</p>	<p><u>な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて話すこと。</u>  ウ <u>姿勢や口形、声の大きさや速さなどに注意して、はっきりした発音で話すこと。</u>  エ 大事なことを落とさないようにしながら、興味をもって聞くこと。  オ 互いの話を集中して聞き、話題に沿って話し合うこと。</p>	<p>合って考えを一つにまとめたりすること。  ウ 場面に合わせてあいさつをしたり、必要なことについて身近な人と連絡を合ったりすること。  エ 知らせたいことなどについて身近な人に紹介したり、それを聞いたりすること。</p>
B書くこと	<p>経験したことや想像したことなどについて、順序を整理し、簡単な構成を考えて文や文章を書く能力を身に付けさせるとともに、進んで書こうとする態度を育てる。</p>	<p>ア 経験したことや想像したことなどから書くことを決め、書こうとする題材に必要な事柄を集めること。  イ 自分の考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。  ウ 語と語や文と文との続き方に注意しながら、つながりのある文や文章を書くこと。  エ 文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いなどに気が付き、直すこと。  オ 書いたものを読み合い、よいところを見付けて感想を伝え合うこと。</p>	<p>ア 想像したことなどを文章に書くこと。  イ 経験したことを報告する文章や観察したことを記録する文章などを書くこと。  ウ 身近な事物を簡単に説明する文章などを書くこと。  エ 紹介したいことをメモにまとめたり、文章に書いたりすること。  オ 伝えたいことを簡単な手紙に書くこと。</p>
C読むこと	<p>書かれている事柄の順序や場面の様子などに気付いたり、想像を広げたりしながら読む能力を身に付けさせるとともに、楽しんで読書しようとする態度を育てる。</p>	<p>ア 語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。  イ 時間的な順序や事柄の順序などを考えながら内容の大体を読むこと。  ウ 場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと。  エ 文章の中の大事な言葉や文を書き抜くこと。  オ 文章の内容と自分の経験とを結び付けて、自分の思いや考えをまとめ、発表し合うこと。  カ 楽しんだり知識を得たりするために、本や文章を選んで読むこと。</p>	<p>ア 本や文章を楽しんだり、想像を広げたりしながら読むこと。  イ 物語の読み聞かせを聞いたり、物語を演じたりすること。  ウ 事物の仕組みなどについて説明した本や文章を読むこと。  エ 物語や、科学的なことについて書いた本や文章を読んで、感想を書くこと。  オ 読んだ本について、好きなところを紹介すること。</p>

## ○ 〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕

(1) 「A話すこと・聞くこと」、「B書くこと」及び「C読むこと」の指導を通して、次の事項について指導する。	
ア 伝統的な言語文化に関する事項	(7) 昔話や神話・伝承などの本や文章の読み聞かせを聞いたり、発表し合ったりすること。
イ 言葉の特徴やきまりに関する事項	<p>言葉の働きや特徴に関する事項  (7) 言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。  (4) 音節と文字との関係や、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くこと。  (7) 言葉には、意味による語句のまとまりがあることに気付くこと。  -----  表記に関する事項  (エ) 長音、拗音、促音、撥音などの表記ができ、助詞の「は」、「へ」及び「を」を文の中で正しく使うこと。  (ウ) 句読点の打ち方や、かぎ（「」）の使い方を理解して文章の中で使うこと。  -----  文及び文章の構成に関する事項  (ウ) 文の中における主語と述語との関係に注意すること。  -----  言葉遣いに関する事項  (キ) 敬体で書かれた文章に慣れること。</p>
ウ 文字に関する事項	<p>(7) 片仮名及びひらがなを読み、書くこと。また、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。  (4) 第1学年においては、別表の学年別漢字配当表（以下「学年別漢字配当表」という。）の第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使うこと。  (7) 第2学年においては、学年別漢字配当表の第2学年までに配当されている漢字を読むこと。また、第1学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、第2学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。</p>
(2) 書写に関する次の事項について指導する。	
ア	姿勢や筆記具の持ち方を正しくし、文字の形に注意しながら、丁寧に書くこと。
イ	点画の長短や方向、接し方や交わり方などに注意して、筆順に従って文字を正しく書くこと。



### 第1学年及び第2学年の指導に当たって

- ・日常生活における活動や生活科その他の教科の学習活動と関連付ける。
- ・学習意欲を高めながら、学習習慣、学習規律の形成と定着を図る。
- ・読み聞かせなど、言葉の世界を広げるための工夫をする。

### (2) 第3学年及び第4学年の指導のポイント

	目 標	内容(1) 指導事項	内容(2) 言語活動例
A 話すこと・聞くこと	相手や目的に応じ、調べたことなどについて、筋道を立てて話す能力、話の中心に気を付けて聞く能力、進行に沿って話し合う能力を身に付けさせるとともに、工夫をしながら話したり聞いたりしようとする態度を育てる。	ア 関心のあることなどから話題を決め、必要な事柄について調べ、要点をメモすること。 イ 相手や目的に応じて、理由や事例などを挙げながら筋道を立て、丁寧な言葉を用いるなど適切な言葉遣いで話すこと。 ウ 相手を見たり、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意したりして話すこと。 エ 話の中心に気を付けて聞き、質問をしたり感想を述べたりすること。 オ 互いの考えの共通点や相違点を考え、司会や提案などの役割を果たしながら、進行に沿って話し合うこと。	ア 出来事の説明や調査の報告をしたり、それらを聞いて意見を述べたりすること。 イ 学級全体で話し合っって考えをまとめた後、意見を述べ合ったりすること。 ウ 図表や絵、写真などから読み取ったことを基に話したり、聞いたりすること。
B 書くこと	相手や目的に応じ、調べたことなどが伝わるように、段落相互の関係などに注意して文章を書く能力を身に付けさせるとともに、工夫をしながら書こうとする態度を育てる。	ア 関心のあることなどから書くことを決め、相手や目的に応じて、書く上で必要な事柄を調べること。 イ 文意全体における段落の役割を理解し、自分の考えが明確になるように、段落相互の関係などに注意して文章を構成すること。 ウ 書こうとするものの中心を明確にし、目的や必要に応じて理由や事例を挙げて書くこと。 エ 文章の敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。 オ 文章の間違いを正したり、よりよい表現に書き直したりすること。 カ 書いたものを発表し合い、書き手の考えの明確さなどについて意見を述べ合うこと。	ア 身近なこと、想像したことなどを基に、詩をつくったり、物語を書いたりすること。 イ 疑問に思ったことを調べて、報告する文章を書いたり、学級新聞などに表したりすること。 ウ 収集した資料を効果的に使い、説明する文章などを書くこと。 エ 目的に合わせて依頼状、案内状、礼状などの手紙を書くこと。
C 読むこと	目的に応じ、内容の中心をとらえたり段落相互の関係を考えたりしながら読む能力を身に付けさせるとともに、幅広く読書しようとする態度を育てる。	ア 内容の中心や場面の様子がよく分かるように音読すること。 イ 目的に応じて、中心となる語や文をとらえて段落相互の関係や事実と意見との関係を考え、文章を読むこと。 ウ 場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述を基に想像して読むこと。 エ 目的や必要に応じて、文章の要点や細かい点に注意しながら読み、文章などを引用したり要約したりすること。 オ 文章を読んで考えたことを発表し合い、一人一人の感じ方について違いのあることに気付くこと。 カ 目的に応じて、いろいろな本や文章を選んで読むこと。	ア 物語や詩を読み、感想を述べ合うこと。 イ 記録や報告の文章、図鑑や事典などを読んで利用すること。 ウ 記録や報告の文章を読んでまとめたものを読み合うこと。 エ 紹介したい本を取り上げて説明すること。 オ 必要な情報を得るために、読んだ内容に関連した他の本や文章などを読むこと。

「引用」… 本や文章の一節や文、語句などを引いてくること。引用に当たっては、「」でくくること、出典を明示すること、適切な量などについても指導する。

### ○ 【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

(1) 「A話すこと・聞くこと」、「B書くこと」及び「C読むこと」の指導を通して、次の事項について指導する。	
ア 伝統的な言語文化に関する事項	(7) 易しい文語調の短歌や俳句について、情景を思い浮かべたり、リズムを感じ取りながら音読や暗唱をしたりすること。 (4) 長い間使われてきたことわざや慣用語、故事成語などの意味を知り、使うこと。



イ 言葉の特徴やきまりに関する事項	<p>言葉の働きや特徴に関する事項</p> <p>(ア) 言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。</p> <p>(イ) 漢字と仮名を用いた表記などに関心をもつこと。</p> <hr/> <p>表記に関する事項</p> <p>(ウ) 送り仮名に注意して書き、また、活用についての意識をもつこと。</p> <p>(エ) 句読点を適切に打ち、また、段落の始め、会話の部分などの必要な箇所は行を改めて書くこと。</p> <hr/> <p>語句に関する事項</p> <p>(オ) 表現したり理解したりするために必要な語句を増し、また、語句には性質や役割の上で類別があることを理解すること。</p> <p>(カ) 表現したり理解したりするために必要な文字や語句について、辞書を利用して調べる方法を理解し、調べる習慣を付けること。</p> <hr/> <p>文及び文章の構成に関する事項</p> <p>(キ) 修飾と被修飾との関係など、文の構成について初歩的な理解をもつこと。</p> <p>(ク) 指示語や接続語が文と文との意味のつながりに果たす役割を理解し、使うこと。</p>
ウ 文字に関する事項	<p>(ア) 第3学年においては、日常使われている簡単な単語について、ローマ字で表記されたものを読み、また、ローマ字で書くこと。</p> <p>(イ) 第3学年及び第4学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。</p> <p>(ウ) 漢字のへん、つくりなどの構成についての知識をもつこと。</p> <p>(2) 書写に関する次の事項について指導する。</p> <p>ア 文字の組立て方を理解し、形を整えて書くこと。</p> <p>イ 漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書くこと。</p> <p>ウ 点画の種類を理解するとともに、毛筆を使用して筆圧などに注意して書くこと。</p>



### 第3学年及び第4学年の指導に当たって

- ・他教科等と関連を図り、生きて働く言葉の力を育成する。
- ・学校図書館や情報機器を積極的に活用し、情報活用能力を育成する。
- ・国語辞典や漢和辞典などを利用して調べる習慣を付け、確かな言葉の世界を築く。

### (3) 第5学年及び第6学年の指導のポイント

	目 標	内容(1) 指導事項	内容(2) 言語活動例
A 話 す こ と ・ 聞 く こ と	<p>目的や意図に応じ、考えたことや伝えたいことなどについて、的確に話す能力、相手の意図をつかみながら聞く能力、計画的に話し合う能力を身に付けさせるとともに、適切に話したり聞いたりしようとする態度を育てる。</p>	<p>ア 考えたことや伝えたいことなどから話題を決め、収集した知識や情報を関係付けること。</p> <p>イ 目的や意図に応じて、事柄が明確に伝わるように話の構成を工夫しながら、場に応じた適切な言葉遣いで話すこと。</p> <p>ウ <u>共通語と方言との違いを理解し、また、必要に応じて共通語で話すこと。</u></p> <p>エ 話し手の意図をとらえながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめること。</p> <p>オ 互いの立場や意図をはっきりさせながら、計画的に話し合うこと。</p>	<p>ア 資料を提示しながら説明や報告をしたり、それらを聞いて助言や提案をしたりすること。</p> <p>イ 調べたことやまとめたことについて、討論などを行うこと。</p> <p>ウ 事物や人物を推薦したり、それを聞いたりすること。</p>
B 書 く こ と	<p>目的や意図に応じ、考えたことなどを文章全体の構成の効果を考え文章に書く能力を身に付けさせるとともに、適切に書こうとする態度を育てる。</p>	<p>ア 考えたことなどから書くことを決め、目的や意図に応じて、書く事柄を収集し、全体を見通して事柄を整理すること。</p> <p>イ 自分の考えを明確に表現するため、文章全体の構成の効果を考えること。</p> <p>ウ 事実と感想、意見などを区別するとともに、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりすること。</p> <p>エ 引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書くこと。</p> <p>オ 表現の効果などについて確かめたり工夫したりすること。</p>	<p>ア 経験したこと、想像したことなどを基に、詩や短歌、俳句をつくったり、物語や随筆などを書いたりすること。</p> <p>イ 自分の課題について調べ、意見を記述した文章や活動を報告した文章などを書いたり編集したりすること。</p> <p>ウ 事物のよさを多くの人に伝えるための文章を書くこと。</p>

		カ 書いたものを発表し合い、表現の仕方に着目して助言し合うこと。	
C 読むこと	目的に応じ、内容や要旨をとらえながら読む能力を身に付けさせるとともに、読書を通して考えを広げたり深めたりしようとする態度を育てる。	ア 自分の思いや考えが伝わるように音読や朗読をすること。 イ 目的に応じて、本や文章を比べて読むなど効果的な読み方を工夫すること。 ウ 目的に応じて、文章の内容を的確に押さえて要旨をとらえたり、事実と感想、意見などとの関係を押さえ、自分の考えを明確にしながら読んだりすること。 エ 登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめること。 オ 本や文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりすること。 カ 目的に応じて、複数の本や文章などを選んで比べて読むこと。	ア 伝記を読み、自分の生き方について考えること。 イ 自分の課題を解決するために、意見を述べた文章や解説の文章などを利用すること。 ウ 編集の仕方や記事の書き方に注意して新聞を読むこと。 エ 本を読んで推薦の文章を書くこと。

### ○ 【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

(1) 「A話すこと・聞くこと」、「B書くこと」及び「C読むこと」の指導を通して、次の事項について指導する。	
ア 伝統的な言語文化に関する事項 古文だけでなく、易しい現代語訳や古文について解説した文章なども用いる。	(ア) 親しみやすい古文や漢文、近代以降の文語調の文章について、内容の大体を知り、音読すること。 (イ) 古典について解説した文章を読み、昔の人のものの見方や感じ方を知ること。
イ 言葉の特徴やよきまじりに関する事項	言葉の働きや特徴に関する事項 (ア) 話し言葉と書き言葉との違いに気付くこと。 (イ) 時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付くこと。 表記に関する事項 (ウ) 送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くこと。 語句に関する事項 (エ) 語句の構成、変化などについての理解を深め、また、語句の由来などに関心をもつこと。 (オ) 文章の中での語句と語句との関係を理解すること。 (カ) 語感、言葉の使い方に対する感覚などについて関心をもつこと。 文及び文章の構成に関する事項 (キ) 文や文章にはいろいろな構成があることについて理解すること。 言葉遣いに関する事項 (ク) 日常よく使われる敬語の使い方慣れること。 表現の工夫に関する事項 (ケ) 比喩や反復などの表現の工夫に気付くこと。
ウ 文字に関する事項	(ア) 第5学年及び第6学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 (イ) 仮名及び漢字の由来、特質などについて理解すること。
(2) 書写に関する次の事項について指導する。	
ア 用紙全体との関係に注意し、文字の大きさや配列などを決めるとともに、書く速さを意識して書くこと。	
イ 目的に応じて使用する筆記具を選び、その特徴を生かして書くこと。	
ウ 毛筆を使用して、穂先の動きと点画のつながりを意識して書くこと。	



#### 第5学年及び第6学年の指導に当たって

- ・資料を提示した発表やそれに基づく討論などにより、論理的思考力を育成する。
- ・学校図書館やインターネットなどの利用に関する知識や情報モラルを身に付けさせる。
- ・優れた文章（叙述）に触れるなど、言葉の世界をより豊かにする工夫をする。

## 5 国語科の指導計画作成上のポイント

### (1) 弾力的な指導に関する事項

- 指導計画の作成に当たり、学校や学年あるいは学級の児童の言語能力や言語体験の違いなどに応じて、学習のねらいや児童の興味・関心を考えながら計画を立てる必要がある。



各学年の内容に基づきながらも、その前の学年において初歩的な形で取り上げたり、後の学年において程度を高めて取り上げたりして指導すること、児童の発達の段階を見通して目標の系統性を保ちながら柔軟でしかも弾力的な運用を図り、系統化した効果的な指導がなされるよう計画を立てることが大切である。

### (2) 関連的な指導と学校図書館などの活用に関する事項

- 「A話すこと・聞くこと」、「B書くこと」、「C読むこと」及び〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕に示しているそれぞれの内容を相互に密接に関連させながら指導することで、指導の効果を高めることが重要である。年間指導計画を立てる際、関連して指導する単元及び題材の組合せを考慮して、各領域等の能力が偏りなく育成されるよう配慮する必要がある。

(例)「段落相互の関係」に関する指導事項について(中学年)

「B書くこと」(1)のイ…「段落相互の関係などに注意して文章を構成する」

「C読むこと」(1)のイ…「段落相互の関係や事実と意見との関係を考え、文章を読む」

- 学校図書館については、「C読むこと」の指導だけではなく、「A話すこと・聞くこと」や「B書くこと」の指導の中でも、意図的・計画的に利用する必要がある。また、他の教科においても、児童一人一人が自分の疑問や課題を解決するために、学校図書館が学習・情報センターとして有効に機能することを求めている。このような観点から各領域等において、学校図書館の利用計画を立て、情報収集のための活用を意図的・計画的に行うことが大切である。
- 情報収集や情報発信の手段としてコンピュータや情報通信ネットワークを活用する機会を設けること、インターネットや電子辞書等の活用、コンピュータによる発表資料の作成、プロジェクターによる提示等も重要である。

### (3) 「A話すこと・聞くこと」に関する事項

- 話すこと・聞くこと的能力は、学習した知識・技能を繰り返し用いたり、実際の生活場面において使いこなす機会を多くもったりすることによって身に付けることができる。したがって、これらのことを年間指導計画に意図的・計画的に位置付け、確実に指導を行うことが重要である。



#### 「A話すこと・聞くこと」に関する指導に相当する時間

第1学年及び第2学年…年間35単位時間程度

第3学年及び第4学年…年間30単位時間程度

第5学年及び第6学年…年間25単位時間程度

創意工夫により、児童の実態に応じた、より有効な音声言語のための教材を活用し、指導の効果を高める。

※ ある時期にまとめて単元を設定したり、1単位時間の中の15分程度の短い時間を組み合わせたりするなど工夫して設定していくことが重要である。

#### (4) 「B書くこと」に関する事項

- 「B書くこと」の指導では、書く活動の過程に沿って基礎的な能力を取り上げ、それを、学年に応じて年間指導計画に意図的・計画的に位置付けて育成することが重要である。
- 文章の表現過程に応じた学習を展開するとともに、実際に文章を書く活動を多く取ることや、文章を書く学習を特に取り上げて指導する工夫も必要である。



##### 「B書くこと」に関する指導に配当する時間

第1学年及び第2学年…年間100単位時間程度  
 第3学年及び第4学年…年間85単位時間程度  
 第5学年及び第6学年…年間55単位時間程度

実際に文章を書く活動をなるべく多くする。

#### (5) 「C読むこと」に関する事項

- 児童の読書意欲を高め、日常生活においても読書活動を活発に行うように促し、児童の読書力を向上させることが重要である。また、国語科における読書の指導は、常に国語科以外の学校の教育活動全体における読書の指導との密接な連携を図っていく必要がある。

#### (6) 生活科や幼稚園教育との関連についての事項

- 幼児期は体験活動が中心の時期であり、周りの人や物、自然などの環境に体ごとにかかわり全身で感じるなど、活動と場、体験と感情が密接に結び付いている。小学校低学年の児童は同じような発達の特性をもっており、体験を通して感じたことや考えたことなどを、常に自分なりに組み換えながら学んでいる。

低学年では、このような発達の特性を生かし、生活科など他教科等との関連を積極的に図ったり、幼稚園、保育所、認定こども園における言葉に関する内容などを参考にして国語科の指導計画を作成したりすることが必要である。

#### (7) 道徳との関連についての事項

- 国語科における道徳教育の指導においては、道徳教育の目標に基づき、道徳の時間などとの関連を考慮する必要がある。国語科の年間指導計画の作成などに際して、道徳教育の全体計画との関連、指導の内容及び時期等に配慮し、両者が相互に効果を高め合うようにすることが大切である。

#### (8) 伝統的な言語文化に関する事項、言葉の特徴やきまりに関する事項、文字に関する事項

- 〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕の(1)は、伝統的な言語文化に関する事項、言葉の特徴やきまりに関する事項、文字に関する事項を、学年に応じて系統的に配列している。

また、「A話すこと・聞くこと」、「B書くこと」及び「C読むこと」の各領域の指導を通して行うことを基本とするが、知識・技能の定着を図るために、まとめて単元化して扱ったり、特定の時間を確保して繰り返し指導したり、学期や学年を超えて指導したりすることもできる。



特定の事項をまとめたり繰り返したりする学習は、形式的・機械的な学習になりやすいので、児童が興味や関心をもって学習を継続できるような工夫が大切である。



### 「文字に関する指導」の中の漢字の指導の取扱い

- ・当該学年に配当されている漢字は原則としてその学年で指導するものであるが、必要に応じて弾力的な扱いができる。
- ・振り仮名付きの漢字の提示を増やし、漢字を読む機会を多くもつようにする。
- ・漢字の指導の際には、学習指導要領の「学年別漢字配当表」に示された漢字の字体を標準として指導する。

## (9) 書写に関する事項



- ・硬筆を使用する書写の指導は各学年で行う。
- ・毛筆を使用する書写の指導は第3学年以上の各学年で行う。また、各学年年間30単位時間程度を配当する。

## 6 奈良県の郷土素材などを活用した指導例

単元の目標は、「国語への関心・意欲・態度」、「話す（聞く・書く・読む）能力」の観点（○）と、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」（□）で示している。

### ◆第1学年の指導例

#### 本単元の趣旨及び単元構成の意図など

我が国の伝統的な言語文化に親しみ、さらに継承・発展させる態度を育てるために、低学年では、昔話や神話・伝承などの本や文章の読み聞かせを聞いたり、発表し合ったりする。

本単元では、神話の一つを教材として取り上げ、児童に伝統的な言語文化としての古典に出会わせ、読み聞かせを聞いたり演じたりすることを通して、伝統的な言語文化に親しみ楽しむことができるようにすることを目指している。

神話の教材化に際しては、児童がより親しめるように自作の紙芝居を用いる。

1 単元名 神話を楽しもう（指導する領域：C読むこと(1)ウ）

教材名 いなばのしろうさぎ

#### 2 単元の目標

- 日本の昔話や神話・伝承に関心をもち、楽しんで読もうとする。  
(国語への関心・意欲・態度)
- 場面の様子について想像を広げながら楽しんで読むことができる。  
(読む能力)
- 昔話や神話・伝承などの本や文章の読み聞かせを聞いたり、発表し合ったりする。

#### 3 指導のポイント

##### (1) 学習素材について

教材「いなばのしろうさぎ」は、『古事記』にもある神話の一つとして語り継がれてきた。現在、様々な絵本や読み物として広く親しまれているが、話の展開、解釈、挿絵などそれぞれ特徴があり多様である。そこで、教材化するに当たっては、適切な提示教材として紙芝居

を作成し、児童にとってより親しみがもてるものとなるよう工夫した。

## (2) 指導上の工夫について

事前に『日本の神話』（あかね書房）などを用いて読み聞かせを行い、日本の国の始まりなど、神話の世界への興味・関心を高める。また、演じることを通して神話に親しみ、読書の幅を広げたり、想像を広げたりすることを重視する。

## (3) 取り扱う言語活動

演じるために必要な事柄を友達と話し合ったり、ワークシートなどを活用して書いたりする活動を取り入れる。さらに、家族や身近な人に神話について聞いたり、本で調べたりする活動により、主体的に考えたり進んで発信しようとしたりする態度を身に付けさせる。

## 4 単元の学習計画（全6時間）

次	時	学 習 活 動	指導上の留意点	備考
一	①	<ul style="list-style-type: none"> <li>紙芝居「いなばのしろうさぎ」の読み聞かせを聞く。</li> <li>感想を交流する。</li> </ul> <p>気に入ったところはどこかな？</p> <p>よく分からなかったところやもっと知りたいところは？</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>できるだけたくさんの感想を自分の言葉で表現させる。</li> </ul> <p>おもしろかったところや言葉は何か？</p> <p>よく似た話を知っているかな？</p>	
	②	<ul style="list-style-type: none"> <li>あらすじをつかむ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各場面の登場人物の行動から、場面の様子や登場人物の気持ちを想像させる。</li> </ul>	
二	③	<ul style="list-style-type: none"> <li>登場人物の気持ちやセリフを考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ワークシートを準備し、書かせてから発表させる。</li> </ul>	ワークシート
	④	<ul style="list-style-type: none"> <li>演じる練習をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループに分かれて練習させる。</li> <li>授業と並行して、神話について家族など身近な人に聞いたり、本で調べたりさせる。</li> </ul>	
	⑤	<ul style="list-style-type: none"> <li>発表する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>演じて楽しかったところや友達のよかったところなど感想を尋ね、神話への親しみを深めさせる。</li> </ul>	
三	⑥	<ul style="list-style-type: none"> <li>他の神話の本を読むなど、読書の幅を広げる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>関連する神話・昔話など自由に読ませる。本は面展示するなどして手に取らせやすくし、興味をも</li> </ul>	面展台

			たせる工夫をする。	
--	--	--	-----------	--

## 5 【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】との関連

### (1) ア伝統的な言語文化に関する事項(ア)

#### <参考文献>

「日本の神話」(全六巻)(赤羽末吉・絵 舟崎克彦・文 あかね書房、'95.10)

「日本の神話3 イナバの白うさぎ」(阿部 肇・絵 西野綾子・文 ひくまの出版、'89.5)

#### ◆第2学年の指導例

##### 本単元の趣旨及び単元構成の意図など

我が国の伝統的な言語文化に親しみ、さらに継承・発展させる態度を育てるために、低学年では、昔話や神話・伝承などの本や文章の読み聞かせを聞いたり、発表し合ったりする。

本単元は、低学年の児童に親しみのある昔話を教材にし、楽しみながら読んだり書いたりする活動を中心に構成している。また、年間指導計画を考慮し、児童の能力の実態等に応じて学習コースを指導者が選択できるようにしている。

#### 1 単元名 奈良の昔話にふれよう

(指導する領域：A話すこと・聞くこと(1)イ…Ⅰコース

B書くこと(1)オ …Ⅱコース)

教材名 『読みがたり 奈良のむかし話』(奈良のむかし話研究会編、'04.10)

#### 2 単元の目標

○ 奈良県の昔話に関心を持ち、楽しんで読み聞かせを聞いたり自分で読んだりしようとする。  
(国語への関心・意欲・態度)

○ (Ⅰコース) あらすじや語り口調をとらえながら、読み聞かせを聞くことができる。  
(聞く能力)

奈良の昔話の特徴をとらえて簡単な語りや紙芝居にして、発表し合ったり、紹介し合ったりすることができる。  
(話す能力)

(Ⅱコース) 奈良の昔話を基に、昔話の特徴をとらえて情景や会話などを想像して書き、書いたものを読み合って交流することができる。  
(書く能力)

□ 読み聞かせを聞いたり、発表し合ったりして、奈良の昔話に親しむ。

#### 3 指導のポイント

##### (1) 学習素材について

本単元では、伝統的な言語文化としての古典に出会い親しんでいくきっかけとして、児童にとって親しみのもてる昔話を教材とした。奈良の昔話の読み聞かせを軸として、昔話の楽しさを味わったり、その特徴をとらえて様々な方法で発表し合ったりすること(Ⅰコース)、昔話の題材や言葉を基に想像を広げて書き、交流すること(Ⅱコース)の2つの指導展開を示した。児童の興味・関心や実態、付けたい能力を考慮して、コースを選択し指導する。

##### (2) 指導上の工夫

指導に当たっては、まず『読みがたり 奈良のむかし話』を読み聞かせ、昔話にも面白い

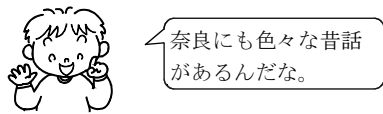
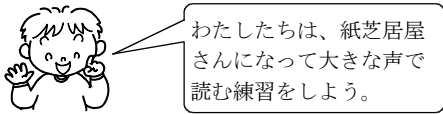
話、怖い話、楽しい話、不思議な話など様々なお話があることに気付き、昔話の楽しさが実感できるようにさせる。また、お話の楽しさや面白さに加え、独特の語り口調や言い回しなどにも気付かせ、自分たちの住んでいる地域の地名や場所が登場していることにも着目させながら、昔話に親しみをもたせることが大切である。

その上で、昔話を素材に発表し合い発信する活動につなげる。発信するための具体的な方法としては、昔話の特徴をとらえ、奈良の昔話のあらすじを基に、簡単な語りや劇、紙芝居などを利用して紹介し合う活動（Ⅰコース）、題材から情景や会話などを想像して書き、読み合う活動（Ⅱコース）、などが考えられる。

これらの活動を通して、互いの思いを分かち合ったり、感じ方や考え方の違いを認め合ったりしながら、児童は言葉の世界をさらに主体的に広げていくことであろう。イメージを言葉にすることで、自分の考えを確かなものにしたり深めたりさせることが大切である。

#### 4 単元の学習計画

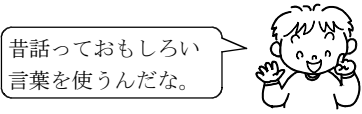
##### （Ⅰコース）

次	時	学 習 活 動	指導上の留意点	備考
一	①	<ul style="list-style-type: none"> <li>教材の読み聞かせを聞く。</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>昔話の語り口調や言い回しなどに気付かせる。</li> </ul>	昔話
二	②	<ul style="list-style-type: none"> <li>教材から紹介したい昔話をグループで選ぶ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>これまでの学習を振り返りながら、様々な発表の方法を考えさせる。</li> <li>語のまとまりや言葉の響きに気を付けて音読や朗読をさせる。</li> </ul>	例として示すための紙芝居など
	③	<ul style="list-style-type: none"> <li>紹介する方法をグループで考える。</li> </ul>		
	④	例) 紙芝居で紹介しよう。 語りをしよう。 		
三	⑤	<ul style="list-style-type: none"> <li>友達に紹介する。</li> </ul>		

##### （Ⅱコース）

次	時	学 習 活 動	指導上の留意点	備考
一	①	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習のめあてを知る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教材から、3つの場面を描いた視聴覚教材等を用意する。</li> <li>句読点やかぎ（「」）の使い方を理解して書く。</li> </ul>	DVD PC プロジェクター
	②	<ul style="list-style-type: none"> <li>教材から取り出した、3つの場面の絵を見て、順番、あらすじ、情景や会話を想像してお話を書く。</li> </ul>		
	③	<ul style="list-style-type: none"> <li>句読点の打ち方やかぎ（「」）の使い方理解して書く。</li> <li>絵本になるように挿絵も描く。</li> </ul>		
二	④	<ul style="list-style-type: none"> <li>教材の読み聞かせを聞く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>昔話の語り口調や言い回し、自分たちの作品との</li> </ul>	昔話



			違いなどに気付かせる。 ・昔話は、同じ話で語り方の違うものを複数用意することが望ましい。
三	⑤	・作品を友達と読み合い、感想を交流する。	・〈一言感想〉の用紙を、用意したり、感想を述べる際に使用する語彙を参考に示したりするなど、豊かに感想が交流できるよう工夫する。

## 5 〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕との関連

(1) ア伝統的な言語文化に関する事項(ア)

### ◆第3学年の指導例

#### 本単元の趣旨及び単元構成の意図など

本単元では、収集した資料を効果的に活用して書くことの能力の育成を目指し、児童が生活する身近な地域を素材として、ガイドブックを作成したり物語を創作したりする。伝える相手を明確にすることにより主体的に学習を進めさせ、児童の興味・関心に応じて、学習コースが選択できるようにしている。

また、地域について調べたり表現したりする活動を通して、辞書を利用して調べる習慣を身に付けさせるとともに、地域に対する認識や愛着を深めさせることも期待できる。

1 単元名 地域ガイドブックを作ろう／物語を作ろう（指導する領域：B書くこと(1)イ）  
（使用する資料）地域の観光マップ、ウォーキングマップなど。

#### 2 単元の目標

- 関心のある事柄などから書くことを決め、意欲的に書こうとする。  
（国語への関心・意欲・態度）
- 文章全体における段落の役割を理解し、自分の考えが明確になるように、段落相互の関係などに注意して文章を構成することができる。  
（書く能力）
- 表現したり理解したりするために必要な文字や語句について、辞書を利用して調べる方法を理解し、調べる習慣を付ける。

#### 3 指導のポイント

##### (1) 学習素材について

自分たちの住む地域の自慢できるところや歴史などを調べ、関心のある事柄などから書くことを決めて、多くの人に知ってもらうためのガイドブックや物語を作ることで、児童の書く意欲を高め、書く能力の育成を目指す。また、物語（Ⅱコース）を創作する際に、地域の建物や遺跡、自然物、人物などを自由に取り入れて書いたりすることや、ガイドブック（Ⅰコース）の作成に当たって、調べた内容を効果的に活用して書いたりすることを通して、児童が地域への理解や愛着を深めることも期待される。

## (2) 取り扱う言語活動について

観光マップやウォーキングマップ、図書館の郷土資料などを資料として、自分たちの住む地域の自慢できるところや歴史を調べ、Ⅰコースでは、調べたことを報告文、学級新聞、図鑑、小冊子、パンフレット、リーフレットなどに表し、Ⅱコースでは、それらを素材に脚本、小説、紙芝居、物語地図などを創作する。資料を得る方法としては、上記のほかには地元市町村の窓口やWebサイト等が考えられる。いずれのコース、表現形式であっても、その特徴に基づいて書くことが必要となるが、作品を完成させることに終始するのではなく、自分の考えが明確になるように、段落相互の関係に注意して文章を構成することができるよう、指導を重点化して児童の書くことの能力を高めることが重要である。

## (3) 指導上の工夫について

児童に学習の見通しをもたせ、伝える相手や目的を明確にさせることが大切である。また、辞書や本以外にもインターネットを利用したり、地域の人に取材したりして、できるだけたくさんの資料を収集させたい。さらに、収集した資料をどのように活用するかをグループで話し合わせ、書くことを明確にさせたい。

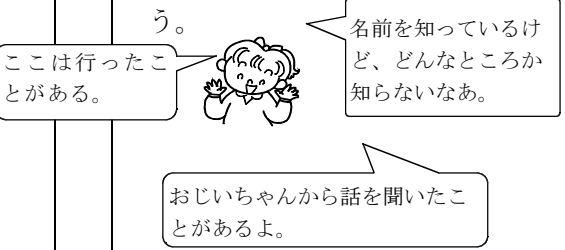
また、段落相互の関係や表現の効果などに着目して推敲したり、友達と交流したりすることで、自分では気付かなかった資料の見方や表現の仕方に気付かせ、より効果的に書く方法について考えさせたい。

## (4) 他の教科等との関連について

自分たちの住む地域の自慢できるところや歴史などについては、生活科の町探検や社会科の校区めぐりなどの学習を生かすことができる。また、今回の学習で完成した文章を一冊のガイドブックにまとめて学校図書館や地域の公共図書館、公民館などに配置してもらったり、創作した作品を保護者や地域の人々の前で発表したり演じたりすることで、社会とかがかわる喜びや達成感を味わわせることなども重要である。

## 4 単元の学習計画

### (Ⅰ、Ⅱ共通)

次	時	学 習 活 動	指導上の留意点	備考
一	①	<ul style="list-style-type: none"> <li>町名の由来などについての話を聞く。</li> <li>自分が知っている地域の自慢できるところや歴史について話し合う。</li> </ul>  <ul style="list-style-type: none"> <li>学習の見通しを立てる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分たちの住んでいる町のあまり知られていないことや自慢できるところなどをどのように探せばよいかを考えさせる。</li> <li>校区めぐりなどで見つけた自慢できるところやみんなが知らなかったこと、地域の歴史などについて話し合わせる。</li> <li>意欲的に学習できるよう、書きたいコースを選ばせ、どのように学習を進めるかをこれまでの学習を基に考えさせる。</li> </ul>	校区地図など           コース説明のための掲示物

課外	・課題に合わせて、資料を収集する。	・どこに行けばどのような資料が収集できるのかを事前に把握しておく。	資料収集リスト
----	-------------------	-----------------------------------	---------

## (Iコース)

次	時	学 習 活 動	指導上の留意点	備考
二	②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・調べる内容や方法を考え、話し合う。</li> <li>・どんな事柄について知らせたいかを考える。</li> <li>・事柄カードの中から、文章化するものを三つ選ぶ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・調べる事柄や方法について、これまでの学習を振り返り考えさせる。</li> <li>・知らせたい事柄をカードに書かせる。</li> </ul>	ワークシート カード
課外		<ul style="list-style-type: none"> <li>・うまく伝えられるように、その場所に行ったり資料で調べたりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・できるだけたくさんの情報を集めさせる。</li> <li>・実際に行って調べる際には、保護者等の協力を得るなど安全面に配慮して行わせる。</li> </ul>	
三	③	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カードを基に全体の組立てを考える。</li> <li>・グループで話し合い、様子を伝えるにはどのような文章表現をする<sub>と</sub>よいか考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達のよいところやもっと知りたいところなどについて、話し合わせる。</li> <li>・段落を意識して構成を考えさせる。</li> </ul>	ワークシート
	④	<ul style="list-style-type: none"> <li>・下書きを書く。</li> <li>・推敲して完成する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図や表、写真などを効果的に使わせる。</li> </ul>	
四	⑤	<ul style="list-style-type: none"> <li>・完成した作品を交流する。</li> </ul>	見せ方に工夫があつて分かりやすかったよ。	

## (IIコース)

次	時	学 習 活 動	指導上の留意点	備考
二	②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観光マップやウォーキングマップを基に物語などの設定を考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートに時代、登場人物、出来事などを書き込ませる。</li> <li>・事件カードや山場カードなどを用意し、おおまかな内容を書かせ、地図上に貼らせるなどして、物語の構想を練らせる。</li> </ul>	ワークシート カード 地図
三	③	<ul style="list-style-type: none"> <li>・構成したことを基に物語を書く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地図に貼ったカードを基に、つながりを意識して書かせる。</li> </ul>	

どんな話にしようかな。



心優しい主人公が仲間とともに冒険するような話がいいな。

山場はどんなふう<sub>に</sub>書いたら読む人が興味をもってくれるかな。

前の場面からつなげるにはどう書いたらいいかな？

④	・書いた物語を推敲し、書き直したり付け加えたりする。	・各場面のつながりや表現の分かりやすさなどに着目させ、読み手を意識して推敲させる。
⑤	・書いたものを読み合い、物語の筋の確かさや展開のおもしろさなどについて意見を交流する。	・単なる感想の述べ合いに終わらないよう、物語の筋の明確さや展開のおもしろさなど、着眼点を示す。
	予想外の展開でおもしろいね。	

### ○ 授業展開例（Ⅱコース 2／5）

	児童の活動	指導者の活動	指導上の留意点
1	本時のめあてを確認する。		
	場面のつながりに気を付けて、物語の内容を考えよう。		
2	状況設定（時代、登場人物、あらすじ）を考える。	・ワークシートを配り、状況設定についての説明をする。	・考える際の手がかりとなるよう、これまでに読んだ物語を想起させる。
3	各カードを書き、地図上に貼る。	・きっかけカード、事件カード、山場カード、結末カードを配る。	・それぞれのカードに、「きっかけ」、「事件」などを意識して、大まかな内容を書くようにさせる。
4	各場面が無理なくつながっているか確かめる。	・物語の展開に無理がないか確認する。	

### 5 【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】との関連

(1) イ言葉の特徴やきまりに関する事項(カ)

### ◆第4学年の指導例

#### 本単元の趣旨及び単元構成の意図など

本単元では、奈良県に縁のある万葉集を教材として、伝統的な言語文化に親しみ、我が国の言語文化を継承し、新たな創造へと生かしていこうとする態度の育成を目指している。

学習に当たっては、易しい文語調の短歌について、情景を思い浮かべたり、リズムを感じ取りながら音読・暗唱したりすることを重視する。

#### 1 単元名 万葉集（短歌）に親しもう ～発見！！万葉集でみる平城京～

（指導する領域：C読むこと(1)ウ）

#### 2 単元の目標

- 文語調の短歌に親しみ、進んで音読しようとする。（国語への関心・意欲・態度）
- 短歌の情景を思い浮かべ、歌に込められた思いを感じることができる。（読む能力）
- 自分が創作した短歌を発表することで、想像的な表現をすることの楽しさを味わうことができる。（読む能力）

- 易しい文語調の短歌について、情景を思い浮かべたり、リズムを感じ取りながら音読したり暗唱したりする。

### 3 指導のポイント

#### (1) 学習素材について

本単元「万葉集（短歌）に親しもう」は、万葉集に所収の歌の中から、奈良県の地名や平城京の景色を詠んだ歌を中心に教材を選び構成したものである。世界遺産である平城宮跡には、1300年前の古に栄えた平城京を偲ばせる朱雀門や大極殿が復原されている。本単元では、短歌の三十一音から、歌に詠われた季節や風情、歌に込めた思いなどを思い浮かべたり、七音五音を中心としたリズムや文語調から国語の美しい響きを感じ取りながら音読したり暗唱したりして、古典に親しむ態度を育成する。

#### (2) 指導上の工夫

指導に当たっては、万葉集の中からリズムカルで奈良県の地名が登場する歌や、ユーモアのある歌を取り上げて関心をもたせる。文語調の短歌は、児童にとって日常生活の中であまり耳にしているものではないので、繰り返し音読させるなどして、リズムのよさを味わいながら国語の美しい響きを感じ取らせ、我が国の伝統的な言語文化に親しませたい。

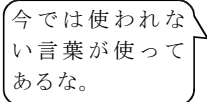
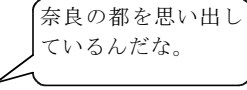
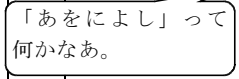
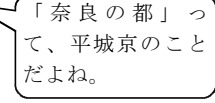
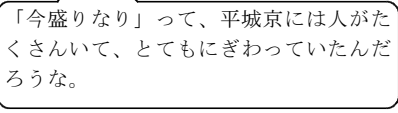
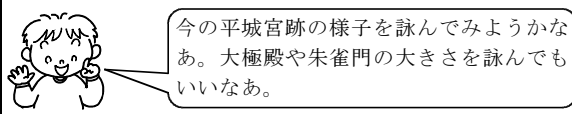
また、平城京の景色を詠んだ短歌を中心に取り上げ、視聴覚教材を効果的に活用することで、より鮮明な情景を思い浮かべながら繰り返し音読し、歌に込められた作者の思いを想像させるとともに、児童が歌から感じ取った感想や思いを大切に学習を進めるようにする。

#### (3) 取り扱う言語活動

本単元の学習を通して、古典に親しむ態度を育てながら、児童自身の短歌を作り発表してみたいという気持ちを高めたい。短歌の創作に当たっては、児童の創作への意欲を高めるため、グループで、それぞれ七音、五音の言葉を考え、五・七・五・七・七となる一つの短歌を作成する創作短歌ゲームを取り入れる。グループで創作の楽しさを味わった後、一人一人が自分の短歌を創作し音読することを通して、短歌のリズムやよさを実感することにつなげるようにする。

### 4 単元の学習計画（全5時間）

次	時	学 習 活 動	指導上の留意点	備考
一	①	<p>・万葉集について関心をもつ。</p> <p>①「よき人のよしとよく見てよしと言ひし吉野よく見よよき人よく見」</p> <p>②「一二の目のみにあらず五六三四さへありけり双六のさえ」</p> <p>短歌って、五・七・五・七・七で、できているんだな。</p> <p>万葉集って聞いたことあるよ。昔の時代の歌だ。</p> <p>吉野って奈良県の地名だな。</p> <p>総合的な学習の時間で勉強している「平城京」の時代に「万葉集」ができたのかあ。</p>	<p>・七音五音を中心としたリズムから、国語の美しい響きを感じ取らせ、音読させる。</p> <p>・歴史的仮名遣いには、ルビを付け、繰り返し範読するなど、音読への抵抗を軽減する工夫をする。</p> <p>・万葉集について、奈良時代に成立した日本最古の歌集であることなど簡単に紹介</p>	<p>提示用の歌</p> <p>ワークシート</p>

			して関心を高める。	
二	<p>② ・平城京を詠んだ歌を音読して、情景を思い浮かべる。</p> <p>③</p> <p>①「あをによし奈良の都は咲く花のにはほふがごとく今盛りなり」</p> <p>②「春の日に張れる柳を取り持ちて見れば都の大路思ほゆ」</p> <p>③「藤波の花は盛りになりにけり平城の京を思ほすや君」</p>     	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歌を繰り返し音読させ、文語調に気付かせる。</li> <li>・「山びこ読み」「つづけ読み」「リレー読み」など様々な音読を取り入れ、繰り返し音読させることで、歌に親しませる。</li> <li>・視聴覚教材を利用し、歌の情景を思い浮かべる際の手がかりとする。</li> <li>・児童の関心に応じて、辞書を活用させる。</li> <li>・歌の情景や歌に込められた作者の思いなどを言葉や映像などから想像させる。</li> </ul>	<p>ワークシート 提示用の歌</p> <p>(参考) 「古典に親しもうDVD」 プロジェクター PC</p>	
三	<p>④ ・創作短歌ゲームをしたり、自分で短歌を創作したりして、短歌のリズムを味わう。</p> <p>⑤</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループや個人で、平城京にちなんだ七音五音の言葉を考え、短歌を創作させることを通して、短歌のリズムやよさを深く味わわせる。</li> </ul>		

## 5 〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕との関連

(1)ア伝統的な言語文化に関する事項(ア)

### ◆第5学年の指導例

#### 本単元の趣旨及び単元構成の意図など

本単元では、韻律（詩の音声的な形式）をもった文章（詩・短歌・俳句）に親しむとともに、郷土奈良に対する新しい魅力に気づき、考えをまとめて話したり、話し手の意図をとらえながら聞いたりする力を育成することを目指している。日常生活の中で、韻律をもった文章に触れる経験の少ない児童にも興味をもてるよう、奈良を題材として取り上げた近代の短歌・俳句を教材とする。リズムよく音読したり、印象や感想を話し合ったりすることを通して自分の考えを形成し、それらを交流することで、伝統的な言語文化への理解を深めるとともに、互いの考えを尊重し理解しようとする態度の育成にもつなげるようにする。

- 1 単元名 短歌・俳句の世界を味わおう（指導する領域：A話すこと・聞くこと(1)エ）  
教材名 奈良の短歌・俳句

## 2 単元の目標

- 短歌・俳句の世界を味わい、自分と友達の考えを比べながら話したり聞いたりしようとする。  
(国語への関心・意欲・態度)
- 自分の考えが分かるように話の組立てを工夫しながら話すことができる。(話す能力)
- 話し手の意図をとらえながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめることができる。  
(聞く能力)
- 親しみやすい短歌・俳句について、内容の大体を知り、音読する。

## 3 指導のポイント

### (1) 学習素材について

言葉は、内容だけでなく音や形で構成されている。表現力を高めるためには、内容だけでなく形式への理解、すなわち韻律等に関する理解も欠かせない。本単元では、韻律をもった文章を自らの表現に取り入れる窓口として学習を位置付け、韻律をもつ文章の形式に親しませることを目指している。内容の理解よりも親しませることに主眼を置き、友達の朗読を聞いて思いや考えを深めたり、朗読や感想を発表し合い交流したりする活動を中心とする。

### (2) 指導上の工夫

奈良を題材として詠まれた近代以降の短歌や俳句の資料を用いて、児童の興味・関心を高め、親しみがもてるよう配慮する。感想をまとめるに当たっては、自由な発想を引き出すため、ワークシートには図や絵を含めて記録させ、感想メモとして蓄積させたい。この感想メモを基に自分のイメージを明確にもたせることで、友達のイメージとの違いをより鮮明に意識できるようになる。さらにそこから、他教科等との学習と関連させつつ、取り上げた歌人・俳人の他の作品への興味を高め、読書活動を推進したり、創作活動を支援したりするなど、学習を発展させることも工夫する。

## 4 単元の学習計画（全4時間）

次	時	学 習 活 動	指導上の留意点	備 考
一	①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 韻律をもった文章について知る。</li> <li>・ 学習のめあてを知る。</li> <li>・ 範読を聞く。</li> <li>・ 音読・朗読する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ これまでに取り上げたリズムのよい詩などを例に説明する。</li> <li>・ 範読して、音読への抵抗を軽減する。</li> <li>・ ペアで音読の練習をさせ、自信をもって、音読・朗読できるようにさせる。</li> <li>・ 家庭でも音読の練習をさせ、声を出すことへの抵抗を減らす。</li> </ul>	詩のプリント
二	②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ペアで朗読を聞き合い、朗読の仕方などについて交流する。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-top: 5px;"> <p>ここで区切って読んだのは、気持ちを込めたかったからだよ。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ペアで朗読を聞き合う。聞きながら、工夫しているところなどをワークシートにまとめ、話し合う。</li> </ul>	ワークシート

		<ul style="list-style-type: none"> <li>互いのワークシートを交換し、それらをまとめて、発表メモにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>相手を替えて、2～3回繰り返させ、より多様な考え方・感じ方に触れさせる。</li> </ul>
三	③	<ul style="list-style-type: none"> <li>発表メモを基に発表原稿を作成する。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">         こんな感じ方もあるんだな。私と違うところだ。こっちは同じだな。       </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>同じ作品を選んだ者で発表チームを作り、発表について話し合う。</li> <li>話し合いを踏まえて、発表原稿を見直す。</li> <li>発表の練習をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>発表メモを基に、相手のとらえ方と自分の考えとの違いや、伝え方について考えさせる。</li> <li>同じ歌についての違う考え方に気付かせ、より豊かな朗読ができるようにさせる。</li> <li>図や絵なども適切に使用するよう指導する。</li> </ul>
四	④	<ul style="list-style-type: none"> <li>歌についての思いや考えを発表し合い、交流する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>発表のよい点をポイントを絞って評価させる。</li> <li>公共図書館の利用案内などの資料を配付して、さらに関心を高めさせる。</li> </ul>

## 5 〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕との関連

(1) ア伝統的な言語文化に関する事項(ア)、イ言葉の特徴やきまりに関する事項(カ)

### ◆第6学年の指導例

#### 本単元の趣旨及び単元構成の意図など

身近に起こったこと、見たことや聞いたこと、経験したことなどを他の人にも分かるように描写した上で、感想や感慨、自分にとっての意味などをまとめた随筆は、これまでの文学的な文章や説明的な文章の学習で培ってきた表現力を生かして書くことが求められる。小学校最終学年である児童に、随筆を書くことを通して、自分のものの見方や考え方、生き方などを見つめ直させたり、深めさせたりするとともに、これまでの学習を生かしながら思考力や表現力を総合的に発揮させたい。

1 単元名 随筆を書こう (指導する領域：B書くこと(1)カ)

教材名 「春はあけぼの」 (『枕草子』清少納言)

「ホタル」(『ももこのいきもの図鑑』さくらももこ、集英社文庫、'98.5)

#### 2 単元の目標

- 昔の人のものの見方や考え方に興味をもつとともに、これまでの経験や出来事を題材に進んで随筆を書こうとする。(国語への関心・意欲・態度)
- 随筆を書いて発表し合い、表現の仕方に着目して助言し合うことができる。(書く能力)



- 昔の人のものの見方や感じ方を知ることを通して伝統的な言語文化に親しみ、また、言葉の使い方に対する感覚などについて関心をもつ。

### 3 指導のポイント

#### (1) 学習素材について

本単元「随筆を書こう」は、二つの随筆を通して、昔の人と現代の人のものの見方や感じ方を比較しながら自分の創作活動に生かすことを目的に設定した単元である。三大随筆の一つである『枕草子』に触れ、さらに現代の随筆（「ホテル」さくらももこ）とを比べて読むことで、それぞれの作者の世界観を味わわせるとともに、表現の効果に気付かせ自らの表現に役立てさせたい。また、美しい情景をよいものとして感じる感性は千年の時を経ても変わらないことを知り、文化の連続性について考えるきっかけとすることも期待できる。

#### (2) 指導上の工夫

二つの随筆を読む際に、作者がどのような思いや考えで対象物を見ているかに注目させ、自分が創作するときには、どのような書き方をすれば自分のものの見方や感じ方が適切に表現できるのかを考えさせたい。そこで今回は、『枕草子』の第一段「春はあけぼの」を参考に、自分なりの『枕草子』を書くことを学習活動として設定した。季節の移り変わりはどの児童も経験していることであり、それぞれの季節に対する自分なりのイメージをもっている。そのイメージを膨らませ、創作活動につなげていく。その際、現代の随筆を一方に置くことで、より自由な書き方が可能であることに気付かせるようにする。また互いに書いたものを交流することで、表現の効果に気付かせ、自分の表現に役立てさせたい。

### 4 単元の学習計画（全6時間）

次	時	学 習 活 動	指導上の留意点	備考
一	①	・「春はあけぼの」を音読して、内容の大体を知る。	・『枕草子』や成立した時代などについて簡単に紹介する。	プリント
	②	・感想や『枕草子』について知っていることを発表する。	・視聴覚教材や情報機器を用いて、豊かに想像させる。	プロジェクター PC DVD
二	③	・「ホテル」を読み、作者のものの見方や感じ方を話し合う。	・「春はあけぼの」と比較して、作者のものの見方や感じ方についての共通点や相違点などを考えさせる。	
三	④	・自分の『枕草子』を書く。	・それぞれの季節についてイメージしたことをメモに書き出し、キーワードを絞らせる。	ワークシート
	⑤	・友達と意見交換して推敲する。	・キーワードを基に、描写や感想、考えが伝わるように書かせる。	
	⑥	・交流して、感想を述べ合う。	・ペアで読み合い、表記や語句、表現の効果について話し合わせ、推敲させる。	
			・具体的に表現を指摘しながら、感じたり思ったりしたことを述べさせる。	

## ○ 授業展開例①（４／６）

	児童の活動	指導者の活動	指導上の留意点
1	・学習のめあてを確認する。		
わたしの『枕草子』を書こう。			
2	・どの季節の随筆を書くかを決めて、その季節のイメージをメモする。	・単語や短文で、自分の経験や想像を基に自由に書かせる。	
3	・書いたものからキーワードを三つ選ぶ。	・そのキーワードを選んだ理由をワークシートに記入させる。	・メモの中で最も伝えたいことは何かを考えさせる。
4	・書くべき内容にふさわしい表現の仕方や表現の効果を考えながら、実際に随筆を書く。	・「ホタル」を参考に、表現の効果について考えさせる。	・強調、比喩、倒置や体言止めの効果に気付かせる。

## ○ 授業展開例②（６／６）

	児童の活動	指導者の活動	指導上の留意点
1	・学習のめあてを確認する。		
出来上がった作品を友達と交流しよう。			
2	・完成した作品をグループで読み合う。	・1グループ当たり3人から4人にし、交流しやすくする。	
3	・よかった表現や感想を述べ合う。	・三色の付箋を用意し、それぞれ「感想」「よかった表現」「自分ならこうする」の三観点に色分けして書かせる。	・友達の文章のよさや参考となった表現を具体的に指摘させる。
4	・交流した感想を書く。	・カードを配布し、感想を記入させる。	・交流を基に自分の考えを深めさせる。

## 5 〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕との関連

(1) ア伝統的な言語文化に関する事項(イ)、イ言葉の特徴やきまりに関する事項(カ)

## ◆小学校の授業で使える万葉集の歌リスト

(※表記及び読み方については、西本願寺本・中西本を底本に小学生向けに改めている。)

よき人のよしとよく見てよしと言ひし吉野よく見よよき人よく見 (巻1 / 27)

春過ぎて夏来たるらし白<sup>しろ</sup>妙<sup>たへ</sup>の衣ほしたり天<sup>あま</sup>の香具山 (巻1 / 28)

東<sup>ひむかし</sup>の野にかぎろひの立つ見えてかへり見すれば月<sup>かたぶ</sup>傾きぬ (巻1 / 48)

田<sup>た</sup>児<sup>ご</sup>の浦<sup>うら</sup>うち出<sup>で</sup>てみれば真<sup>ま</sup>白<sup>しろ</sup>にそ富士<sup>ふじ</sup>の高<sup>たか</sup>嶺<sup>ね</sup>に雪<sup>ゆき</sup>は降りける (巻3 / 318)

あをによし奈良の都は咲く花のほふがごとく今盛りなり (巻3 / 328)

藤波の花は盛りになりにけり平城<sup>なら</sup>の京<sup>みやこ</sup> [奈良の都] を思ほすや君 (巻3 / 330)

銀<sup>しろかね</sup>も金<sup>くがね</sup>も玉も何せむにまされる宝<sup>たから</sup>子<sup>こ</sup>にしかめやも (巻5 / 803)

立ちかはり古き都となりぬれば道の芝草<sup>お</sup>長く生ひにけり (巻6 / 1048)

うちのぼる佐保の川原<sup>あをやぎ</sup>の青柳は今は春べとなりにけるかも (巻8 / 1433)

うま酒三輪<sup>ほふり</sup>の祝<sup>いほ</sup>の山照らす秋<sup>あき</sup>の黄葉<sup>もみぢ</sup>の散らまく惜しも (巻8 / 1517)

淡雪<sup>あわゆき</sup>のほどろほどろに降りしけば平城<sup>なら</sup>の京<sup>みやこ</sup> [奈良の都] し思ほゆるかも (巻8 / 1639)

夕されば雁の越えゆく龍田山<sup>しぐれ</sup>時雨<sup>きほ</sup>に競ひ色づきにけり (巻10 / 2214)

春<sup>はる</sup>柳<sup>やなぎ</sup>葛<sup>かづら</sup>城<sup>きやま</sup>山<sup>やま</sup>にたつ雲の立ちてもゐても妹をしそ思ふ (巻11 / 2453)

明日香川<sup>せせ</sup>瀬々の玉藻のうちなびき心は妹に寄りにけるかも (巻13 / 3267)

妹<sup>いも</sup>に会はずあ<sup>すべ</sup>らば術<sup>いほ</sup>無<sup>な</sup>み石<sup>い</sup>根<sup>はね</sup>踏<sup>ふ</sup>む生駒<sup>あ</sup>の山<sup>く</sup>を越えてそ吾が来る (巻15 / 3590)

あをによし奈良の都にたなびける天<sup>あま</sup>の白雲見れど飽かぬかも (巻15 / 3602)

一<sup>いち</sup>二<sup>に</sup>の目のみにあらず五<sup>ご</sup>六<sup>ろく</sup>三<sup>さん</sup>四<sup>し</sup>さへありけり双<sup>す</sup>六<sup>ご</sup>のさえ (巻16 / 3828)

春<sup>は</sup>の日に張<sup>は</sup>れる柳を取り持ちて見れば都<sup>おほ</sup>の大<sup>ち</sup>路<sup>ぢ</sup>思ほゆ (巻19 / 4142)

## — 作成委員 —

西岡由郎	広陵町立真美ヶ丘第一小学校	校長
星原由佳	奈良市立西大寺北小学校	教諭
榊京子	大和郡山市立郡山北小学校	教諭
中垣義之	生駒市立あすか野小学校	教諭
小崎誠二	奈良県立教育研究所	研究指導主事
東畠智子	奈良県教育委員会事務局学校教育課	指導主事
浦井康	奈良県教育委員会事務局学校教育課	指導主事

(作成委員の職名等は平成21年度のものである。)